

高齢運転者の特徴学ぶ

近運局 事故防止セミナー

【大阪】高齢ドライバーが増加している状況を踏まえ近畿運輸局は20日、「高齢化社会における安全運転の確保」をテーマに第5回自動車事故防止セミナーを開催。

石津緒局長は「日本における65歳以上の高齢者の割合は23%で4人に1人が高齢者。昨年の全国の交通事故死

者数は4611人で、11年連続して減少しているが、年齢層別で見ると65歳以上の高齢者が全体の約半分という高い水準になっている」と述べ、「運輸局では、事業用自動車事故防止のために『近畿グリーンナンバースーフティプラン2010』を策定している。具体的には高齢ドライ

バーに対する安全対策の検討を昨年7月から行っており、運送事業者の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いしたい」とあいさつした。

基調講演として、甲南女子大学人間科学部

の藤島寛氏が「高齢者事故の特徴から」を、特別講演としてヘルスケアネットワーク(OCHIS)理事の作本貞子氏が「高齢者の健康管理について」と題して講演。また、「運転者の教育・指導について」や「安全運転支援システムの取り組み」など、それぞれの担当者が講演した。

(山田克明)



講演するOCHISの作本理事